



や ま だ

体験を通して学ぶこと

校長 佐久間 郁子

6月の中旬、6年生は佐渡修学旅行(一泊二日)に行ってきました。事前の調べ活動やまとめの活動を、総合的な学習の時間を中心に行ってきました。たらい舟や一夜干しづくり、シーカヤック、ろくろを使った器づくりなど、学校では体験できない活動を通して、子どもたちは多くのことを学ぶことができました。子どもたちは、修学旅行での自分の成長を次のように語っていました。「自分の仕事を早くすることができた」「お土産を買う場面で、計算しながら一人で選べたし、ありがとうございますと言うことができた」「自分はさらに人と関わる力を伸ばせたと思った。みんなとたくさん話して、佐渡の時間を大切に使えた」「シーカヤックでは、友達と息を合わせてこぐことができた」なぞ、どの子どもも、成長した自分や人と関わるよさに気付いています。また、修学旅行中、「5年生に伝えるには、この場面を写しておいた方がいいんじゃない」と友達と話し、タブレット端末で記録する姿も見られ、自分たちの学びを5年生にプレゼンテーションするという目的をもって活動していたことが分かり、うれしく思いました。

5年生は、9月に予定している自然体験教室に向けて、今から準備を進めています。先に紹介した6年生もそうですが、当然ながら、当日までの準備においてもたくさんの学びがあります。一人一役でバスレク係やキャンプファイアかかりなど、友達と相談しています。友達の提案に「なるほど」と気がつきがあったり、「うまくできるかな」と心配しつつも楽しく活動できるように頑張ろうと話合ったりしていることも大切な経験です。4年生は、浄水場見学とウォーターシャトル乗船により、自分の身近にある水と川の大切さについて、3年生は地域の特産である黒埼茶豆の苗植えやゲストティーチャーのお話を通して、生産者の方々の思いや工夫・苦労を学んでいます。2年生はミニトマトやキュウリなど自分が選んだ野菜づくりやアグリパークでの体験により、野菜の成長や収穫の喜びを、1年生はアサガオの世話や観察を通して、つるの特徴や開花の喜びを学び感じ取っています。「ミニトマトの実を大きくするためには、脇芽を取らなきゃいけないんだって」とか、「アサガオの水やりは朝とか夕方とか涼しいときにしないと、根っこがダメになるんだって」と話しながら、水やりをしている子どもたちの姿を見ると、私たち教師は体験活動を通して、子どもが何を学んだのかをしっかりと捉えることに努めていかなくてはならないと改めて感じます。

もう少しで夏休みに入ります。一人一人の子どもが、夢中になって取り組めることを見付け、様々な体験を通して学ぶ力を高めることができるようにと願っております。

